

Company Profile

会社案内



▶ Greetings

ご挨拶



代表取締役社長

森川 智之

日本法人であるポストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社は、1987年に創立し、さまざまな先端医療機器を日本に導入してまいりました。

医療機器メーカーにとって最も重要な役割は、未だ十分に満たされない医療現場のニーズに応える革新的な技術や製品を提供し、疾患による負担の軽減を通じて患者さんに貢献することです。

また、治療効果の高い医療機器の提供は、治療効果の維持や再治療率低下などの結果を生み、医療現場の負担を軽減し、医療保険システムの安定と持続へと寄与します。ひいては日本が現在直面する高齢化と医療財政の課題解決の一助にも繋がると確信しています。

一方で、今後大きく変化する医療環境においては、多様なデータの利用やデジタルの有効活用などにより、私たちが持つ“時代の先読み力”を強化し、革新的な医療機器の日本への展開を加速してまいります。

課題と向き合い、困難をチャンスとして受け止め、自信と情熱をもって積極的に解決にあたる姿勢を持ち、医療従事者の皆さまと手を携えながら、患者さんアウトカム（治療結果）の改善に向けて邁進してまいります。

▶ Our Mission and Values

私たちのミッション／バリュー

ボストン・サイエンティフィックは、
世界中の**患者さんの健康状態を改善**するために
革新的な治療法を提供し、
患者さんの人生を実り多いものとすることに
全力で取り組みます

Values

▶ 誠実さと思いやり

Caring

▶ 意義のあるイノベーション

Meaningful Innovation

▶ 高い業績

High Performance

▶ グローバルな連携

Global Collaboration

▶ 多様性

Diversity

▶ ウイニング・スピリット

Winning Spirit

▶ Therapeutic Areas

日本における事業領域

ボストン・サイエンティフィックは、40年超グローバルなメドテックカンパニーのリーダーとして、満たされていないニーズに対応し、医療効率を高める広範なソリューションを提供しています。日本においては、ここで紹介する治療領域で、患者さんの人生をより多いものにするに全力で取り組み、日本の医療に意義のあるイノベーションを起こしていきます。

エレクトロフィジオロジー

心房細動等不整脈の電気生理学治療に用いる製品群



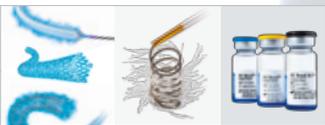
左心耳閉鎖デバイス

左心耳を閉鎖することで非弁膜症性心房細動による脳卒中を予防する製品



ペリフェラルインターベンション

末梢動脈疾患（閉塞性動脈硬化症・バスキュラーアクセストラブル・腎動脈狭窄症など）の治療に用いる製品群



エンドスコピー

消化器系の癌やポリープ、胆石症、消化管狭窄症などの治療、呼吸器疾患の診断・治療に用いる製品群



ニューロモジュレーション

慢性難治性疼痛治療および不随意運動の治療製品群



インターベンショナルカーディオロジー

心筋梗塞や狭心症など、冠動脈疾患の狭窄部を診断・治療する製品群



カーディアック・リズム・マネジメント

心不全・不整脈治療に用いる植込み型製品群



ウロロジー

結石・前立腺肥大症などの泌尿器疾患治療、前立腺がんに対する放射線治療、尿失禁治療に用いる製品群



▶ Great Place to Work

目的意識を持った、多様な働き方をサポート

フレックス制度や在宅勤務など多様性や生産性にフォーカスした働き方の多様性を推進。コアタイムを廃止するなど、新しい働き方で業務効率をあげ、ビジネスを成長させています。

キャリアオーナーシップ



社員の自律的キャリア開発を促進するため、応募型研修や社内公募制度を積極的に活用しています。「社内インターンシップ」を導入し、社員が現職を続けながら興味のある仕事を6か月間体験できる機会を提供しています。この制度は、社員の視野や経験を広げ、人と組織のパフォーマンスの最大化に貢献しています。私たちは、グローバルな活動とともに、日本の組織ニーズに応じた施策も実施しています。

働き方の多様性推進



一人ひとりが自律性を高め、仕事に合わせた生産的な働き方・場所選びができるよう、機能・目的に応じて、分けられたエリアを設定し、最適な場所を選んで働くことができるABW（アクティビティ・ベースド・ワーキング）を導入。リモートと出社勤務を併用したハイブリッド勤務体制へ移行。コアタイムを廃止したスーパーフレックスタイム制度により7時から20時の間でフレキシブルな勤務が可能です。

ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン (DE&I)



DE&Iに取り組み、障がい者の採用や女性管理職の登用を推進しています。産休育休復帰率は100%、男性の育児休暇取得率は70%です。LGBTQ+が働きやすい環境を整備し、同性婚も法律婚と同様に扱っています。従業員リソースグループ（ERG）として、Young Professional's Network (YPN) や EmpowHERが活発に活動し、自己成長や女性のエンパワメントを応援しています。また、National Wear Red Day（毎年2月の第1金曜日に行われるイベント）では、社員が赤いものを身につけることで、女性の心臓疾患に対する意識を高めるなどの活動をグローバルで支援しています。

▶ 企業の社会的責任（CSR）

私たちのコアバリューと誠実さへのコミットメントのもと、私たちはヘルスケア企業として、どのように活動し、私たちを取り巻く社会にどう貢献していくかにも責任があります。



革新的なケア

- **3,700万人**以上の患者さんへケアを提供
- 年間**14億ドル**の研究開発費¹



社員の能力開発

- **43.5%**の女性が中間管理職²として勤務（グローバル）
- 多様なコミュニティのグローバルな連携を推進



より良い地球環境へ

- **82%**の再生可能エネルギーを使用^{3,4}
- **77%**の固形・無害廃棄物がリサイクルへ³
- **72%**の不動産が独立した機関によるエネルギー効率の認証を取得⁵



¹ Represents GAAP R&D expense per Annual Report on Form 10-K.

² Mid-level leadership includes managers, principals, senior managers and fellows.

³ Inclusive of all manufacturing and key distribution sites only.

⁴ Includes renewable electricity generated onsite and purchased electricity matched with electricity from renewable sources.

⁵ Percentage of all Boston Scientific real estate (including commercial, leased and owned) that is independently certified for energy efficiency by industry-leading bodies such as LEED for design and Energy Star or ISO 50001:2018 for building operations.

▶ インスティテュート・フォー・アドバンシング・サイエンス (IAS)

EDUCARE

EDUCAREは、“EDUCATION”と“CARE”を組み合わせで名づけた、世界中の市場に製品テクノロジーを提供している私たちならではの「グローバル機能を備えた教育プログラム」のブランド名称です。グローバル全体で患者ケアをサポートする包括的な教育とトレーニングのプログラムを提供します。



医療従事者の方々に自社製品の適正使用のための情報提供等を行うことを目的に、インターベンション治療トレーニングセンターのパイオニアとして、1998年最新鋭の設備と充実したプログラムを提供する施設を開設しました。現在、米国メープル・グローブ (ミネソタ州)、アーデン・ヒルズ (ミネソタ州)、南アフリカ・ヨハネスブルグ、トルコ・イスタンブール、中国・上海、フランス・パリ、インド・グルガラムの7か所です。これに東京、宮崎の9か所にあります。「宮崎」と「東京」の二か所の施設では、弊社製品をより安全

かつ適正に使用いただくため、最新の製品情報や医療技術をご紹介しています。医療従事者の方々の治療戦略の決定や治療課題の解決に役立つプログラム (カリキュラム) や、より臨床に近い環境における製品トレーニング (シミュレーションを含む) をご提供しています。また、IAS宮崎では、地元の中학생、高校生を対象に企業見学を実施しています。このプログラムは、子供たちにさまざまな仕事や企業を知ってもらうことで、将来の進路選択に役立ててもらうことを目的としています。

▶ 横浜物流センター (YDC)

横浜物流センターでは海外拠点から輸入した医療機器を国内で販売・流通できるようにラベルの添付や包装を行い、より迅速に製品を全国のお客様へ向けて出荷しています。

設立以来、積極的にリサイクルプログラムを推進しており、2013年からは、返却輸送箱の一部や緩衝材の再利用による廃棄削減を実施、固形廃棄物を削減しました。また、日本の医療機器・製薬メーカーとしてはいち早く自動ロボット制御ピッキングシステムである、AutoStoreを導入し、より効率的で正確な製品の先入、先出を実現しています。このシステムの導入により、特定のロット番号を有する製品をピックアップすることが可能となり、例えば、製品の滅菌有効期限切れによる廃棄削減にも役立っています。次世代のオートメーションやセンサーを使ったIoT技術により、弊社のサプライチェーン機能は大幅に強化され、今後も、サードパーティ・ロジスティック企業と戦略的なパートナーシップを組み、直面する課題を見据えて解決していきます。



会社概要

ボストン・サイエンティフィック コーポレーション

会社名 ボストン・サイエンティフィック コーポレーション
創 立 1979年
所在地 米国マサチューセッツ州 マールボロ
最高経営責任者 マイク・マホーニー (CEO)
海外拠点 北米、南米、ヨーロッパ、
日本、アジア・パシフィック、
中近東、アフリカ

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

本社所在地 〒164-0001 東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス
事業所 本社、札幌、仙台、北関東、東京、金沢、名古屋、大阪、広島、福岡、
横浜物流センター、IAS東京、IAS宮崎
創 立 1987年
代表取締役社長 森川 智之
主要取引先 全国主要病院
事業内容 医療機器の輸入および販売
医療に関する情報提供サービス
医療に関するセミナー、講演会、展示会の開催など医療機器の臨床開発、
薬事申請およびこれらに付随・関連する業務

沿革

1979

ボストン・サイエンティフィック
コーポレーション創立



1992

NY株式市場に株式公開



2005

ガイダント社の買収、
カーディアック・リズム・マネジメント
に参入



2013

中野セントラルパークサウスへ移転



2021

新しい働き方である
ハイブリッド勤務体制を導入し、
中野本社オフィスをリニューアル



1987

ボストン・サイエンティフィック
株式会社創立

2004

冠動脈薬剤溶出型ステント
Taxus Express上市



2012

マイク・マホーニー、
最高経営責任者(CEO)に就任

2019

創立40周年、BTG社の
買収でインターベンショナル
オンコロジー拡充



2022

代表取締役社長に
森川 智之 が就任

紫文字(米国) / 青文字(日本)

**Boston
Scientific**

Advancing science for life™

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社
本社 東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス
www.bostonscientific.jp